



洞爺湖有珠山ジオパーク ユネスコ世界ジオパーク再認定審査

現地審査対応報告書

Revalidation of the membership of the UNESCO Global Geoparks Network
for the Toya - Usu UNESCO Global Geopark

2017（平成29）年7月24日～7月27日

北海道伊達市・豊浦町・壮瞥町・洞爺湖町
洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会

■ 審査の概要

洞爺湖有珠山ジオパークが加盟しているユネスコ世界ジオパークネットワークは、認定地域に4年に1度の再認定審査を義務付けており、洞爺湖有珠山ジオパーク（2009.8.22 認定）の2回目の再認定審査（現地審査）が、2017年7月24日～27日まで行われました。

現地審査では、ユネスコ世界ジオパークから派遣された2名の審査員が、各見どころ（ジオサイト）や関係施設を訪れ、ユネスコの評価基準に基づき調査を行いました。

現地審査終了後の講評では、審査員より、当ジオパークがより充実したものとなるためのアドバイスとして、運営組織や視認性、解説看板、ネットワーキング等について改善項目が挙げられましたが、活火山と長く共生している当地域の歴史、減災文化、研究活動、人材育成について高い評価を受けました。

審査員2名はこの現地調査の報告書をユネスコのジオパーク担当部局に提出し、本年9月の「ユネスコ世界ジオパーク評議会会議」で審議され、認定に可否は2018年1月頃までに通知される予定です。

■ 現地調査 審査員

○ ザン・ジャンピン 先生（中国）

Prof. Zhang Jianping, 張 建平 China



仕事：中国地質大学 北京 古生物学の教授
(China University of Geosciences)

関わりのあるジオパーク：様々な中国のジオパークのアドバイザー

専門：古生物学

○ カースティン・レモン 先生（北アイルランド）

Dr. Kirstin Lemon, Northern Ireland



仕事：英国地質研究所、環境とハザードのチームリーダー
SNS マネージャー (British Geological Survey)

職歴：マーブル・アーチ・ケープズ (Marble Arch Caves) 世界ジオパークの地質学者 (2006年～2012年)

「Drifting Apart」プログラム (2015年～現在)

北イギリス、カナダ、アイスランドなどのジオパークと協力して、北周辺の地質宣伝プログラム。

イギリス世界ジオパーク協会、副会長 (2015年～現在)

アイリッシュ世界ジオパーク協会、会長 (2012年～現在)

専門：地質保全・保護
地質と計画
ジオパークとジオツーリズム発展

■ 全体スケジュール

7月23日(日) (審査員移動日)

17:20 新千歳空港到着
19:20 ホテル着

7月24日(月) 視察1【テーマ：火山のサイト・施設と災害遺構・減災文化】

9:30 歓迎レセプション・協議会プレセッション① (洞爺湖町役場防災研修ホール)
11:00 西山山麓火口散策路(南口)・旧国道230号線サイト
12:10 (昼食)
13:20 洞爺湖ビジターセンター・火山科学館
14:00 1977年火山遺構公園
14:20 三松正夫記念館・昭和新山
15:55 有珠山RW - 山頂 - 有珠山南外輪山散策路
17:20 終了

7月25日(火) 視察2【テーマ：文化サイト・施設、先住(アイヌ)民族】

9:00 協議会プレセッション②(洞爺湖観光情報センター)
10:35 善光寺自然公園 - 有珠善光寺
11:30 入江・高砂貝塚館
12:20 (昼食)
14:00 カムイチャシ史跡公園・礼文華海岸
15:00 礼文華生活館(アイヌ民族の自然観、伝統行事の紹介)
16:15 協議会ヒアリング①(提出資料・自己評価シートAの詳細確認)
19:30 終了

7月26日(水) 視察3【テーマ：ジオパークの恵みと住民活動】

9:00 金比羅泉源施設(温泉熱利用バイナリー発電)
10:05 洞爺火砕流台地(サイロ展望台)
酪農学園 成香教育研究センター(車窓から)
10:55 とうや水の駅
11:20 洞爺湖芸術館
11:55 そうべつくだもの村(昼食・果樹園案内)
13:30 道の駅そうべつ情報館i(住民交流会・火山資料室)
15:00 だて歴史文化ミュージアム構想の説明
道の駅だて歴史の杜(藍染・刀鍛冶)
16:00 史跡北黄金貝塚公園
17:00 協議会ヒアリング②(提出資料・自己評価シートBの詳細確認)
19:20 終了

7月27日(木) 審査員講評

8:20 審査員講評
9:15 審査終了

1日目(7/24(月)) テーマ【火山のサイト・施設と災害遺構・減災文化】

■ スケジュール

9:30 歓迎セレモニー(洞爺湖町役場3階 防災研修ホール)

- ① 開会挨拶 真屋敏春洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会会長
- ② 来賓挨拶 窪田毅 北海道副知事
- ③ 審査員紹介 / 審査員あいさつ
- ④ 真屋会長プレゼンテーション(15分) 『洞爺湖有珠山ジオパークの基本理念』
- ⑤ 事務局プレゼンテーション①(45分) 『2013-2016 ジオパーク活動進捗状況』

11:00 旧とうやこ幼稚園～第2展望台視察 説明: 荒町美紀 火山マイスター

11:30 旧国道230号視察 説明: 廣瀬 亘 学識顧問(北海道総合研究機構 地質研究所主査)
塩野 啓一 幹事会アドバイザー(環境省北海道地方環境事務所洞爺湖自然保護官事務所自然保護官)

12:10 昼食 (わかさいも本舗)

13:20 洞爺湖ビジターセンター視察 説明: 佐々木 伸 火山マイスター

14:00 1977年火山遺構公園 視察 説明: ダグラス・ニュートン 火山マイスター

14:20 三松正夫記念館 視察 説明: 三松三朗 三松正夫記念館館長

14:55 有珠山ロープウェイ 説明: 若狭幸司 ワカサリリゾート(株)専務取締役

15:07 ジオパーク山頂防災シアター 視察 説明: 飯田 理 ワカサリリゾート(株) 火山マイスター

15:30 山頂駅～火口原展望台～南外輪山トレイル 視察 説明: 後藤信二 火山マイスター

16:35 南外輪火口原展望台 視察 説明: 岡田 弘 学識顧問(北海道大学名誉教授)

17:20 ホテル到着

18:00 構成4市町長、学識顧問との懇談会(歓迎夕食会・TOYA 乃の風リゾート)

19:50 終了

■ 歓迎セレモニー挨拶（要約）

○ 歓迎挨拶 真屋敏春 協議会会長

- ・ザン・ジャンピン先生、カースティン・レモン先生、当ジオパークによろこそ。
- ・2013年に世界ジオパークの再認定をいただいて以降、人間と大地の繋がりを、地域住民が実感できるよう、重要なサイトの保全と、さらなる活用、減災教育を前面に押し出した普及活動に取り組んできた。
- ・この地域は、噴火災害と向き合い、防災・減災の活動を行う一方、火山や大地から、豊かな恵みを享受している。
- ・3日間の審査では、この4年間に進めてきた取組みをご覧いただきたい。
- ・お2人からは、世界で活躍する科学者の視点と、世界各地のジオパーク活動を支えてこられた経験から、当ジオパークへのご助言やご提言をいただけるものと期待する。

○ 来賓挨拶 窪田 毅 北海道副知事

- ・ユネスコ世界ジオパーク再認定の現地調査のため来訪されたザン・ジャンピン先生、カースティン・レモン先生のお二方に心より歓迎申し上げます。
- ・この間、地域の皆様、科学者、教育機関、企業、そして行政と連携、協力しながら幅広い活動を展開してきた。
- ・特に、火山マイスターは、災害を軽減する知恵や噴火の記憶を伝承するとともに、地域の魅力発信の担い手としても活躍。地域の方々が減災の形を示し、広く発信することで、日本、世界各地の火山災害の軽減に貢献することが、洞爺湖有珠山ジオパークの重要な役割の一つと考える。
- ・洞爺湖温泉を擁する当ジオパークは、年間760万人が訪れる観光地でもありジオパークの魅力を広めていくことができる地域。
- ・また、先住民族であるアイヌの歴史・文化も、当ジオパークの特色の一つ。2020年に白老町にオープンする、国立のアイヌ民族博物館も当ジオパークと一体となり、地域の魅力を高めていただけるものと考えている。
- ・北海道としても昨年北海道博物館においてジオパーク特別展を開催するなど発信に力を入れている。
- ・お二方には当地域の取組が、ユネスコ世界ジオパークとして一層ふさわしいものとなるよう高い見地から忌憚のないアドバイスを期待。

○ 真屋会長 プレゼンテーション『洞爺湖有珠山ジオパーク推進の基本理念』

- ・当ジオパークは、約11万年前の巨大な火砕流噴火を起こした洞爺カルデラ、2万年前に活動を開始した活火山、有珠山など、火山を核としたジオパーク。過去350年間に9回の噴火を経験し、この地域は常に火山噴火のリスクと向き合ってきた。
- ・一方で、この地域には火山活動がもたらす恵みもある。有珠山の山体崩壊で生じた、起伏に富んだ海岸地形は、多様な海の生態系が、縄文時代の人々を始め、北海道の先住民族であるアイヌ民族の生活を支え、火山活動でつくられた日当たりの良い台地は耕作に適し、多様な農産物の生産を可能にしている。さらには1910年の噴火に伴い湧き出した温泉、あるいは火山が作り出した美しい景観が、100年以上もの間、北海道を代表する観光資源として多くの人々を引きつけている。
- ・私たちのジオパーク活動の基本理念は、これらの恵みを享受・活用し、災害の経験を次世代に伝え、次の災害に備えることで「火山との共生」を実現していくこと。受け継いできた「火山との共生」の意識は、この地域住民の大きな特徴。この「火山との共生」の意識を全世界に発信し、人類の共有財産にしたいと強く願う。
- ・ジオパークは、「ジオ多様性の保全」や「地域社会の持続的発展」に留まらず、あらゆる生命が地球と調和し、幸せに暮らしていくために、地域や国家の枠組みを越えて、人々が知識や経験を共有する、重要なプロジェクト。
- ・地球上では地質災害のリスクを避けることはできず、科学的な知識と思考に基づき、住民自らが暮らす大地の特性を理解し、想定される災害に備える必要がある。ジオパーク活動が地質災害リスクの高い地域にも急速に拡大しつつある今、地域の持続的発展のために、減災教育とそれを担う人材の育成が必要とされている。
- ・洞爺湖有珠山ジオパークは、GGN130地域の中で、その取組みを推進する責務があると認識している。

○ 事務局 プレゼンテーション『2013-2016の進捗状況』

- ① 当地域の特性
- ② 2013年の再認定自の指摘事項への対応状況を説明
 - ・『地域における「人間と大地のつながり」に関する事項を大きく取り上げる』
 - ・『全てのジオパーク構成地域・要素を等しく発展させる必要がある。エリア全域においてジオパークを展開し、新たな地質学的サイト、生態学的サイト、文化的サイト、新たなアクティビティを追加するとともに、洞爺湖や有珠山周辺だけでなく、エリア全域でのアクティビティの展開が必要』
 - ・『国際連携やGGNの推進を強化すべき。他のGGNメンバーとの国際交流を活発にすべき』
 - ・『火山遺構の保護。火山噴火による災害遺構は世界的にも特に優れたサイトであり、ジオパーク運営の最重要案件とすべき』
 - ・『大地と人間の歴史（アイヌの生活様式、縄文文化遺跡）のつながりをアピールすることも特に対策が必要』
 - ・『（英語表記として）Natural Park where ～は不適当。例）An area where you can learn first-hand about the ever-changing Mother Earth なら良い』
 - ・『温泉を巡るツアー等も検討し「火山と温泉とのつながり」をプロモーションすべき』
- ③ 今後の目標と活動計画
 - ・解説板、パンフレット等、普及媒体の改善と集約
 - ・マスタープランの改定
 - ・ジオパークガイド認定の仕組みの再検討
 - ・ジオサイトリストの再構築と、保全クラス・活用方針の設定

■ 24日 写真



真屋会長挨拶



窪田北海道副知事挨拶



審査員挨拶



4年間の進捗状況説明



旧とうやこ幼稚園 (西山山麓火口散策路南口)



グラーベンの説明



洞爺湖ビジターセンター



1977年火山遺構公園



三松正夫記念館



有珠山ロープウェイ山麓駅



有珠山ロープウェイで山頂へ



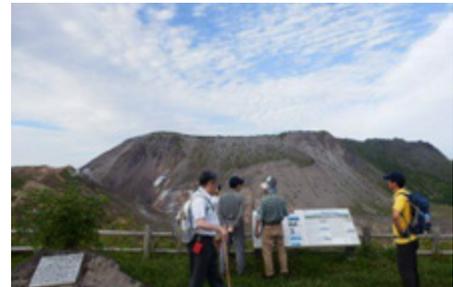
山頂駅防災シアター



火口原展望台へ



火口原展望台



南外輪山火口原展望台

2日目(7/25(火)) テーマ【文化サイト・施設、先住民族の文化】

■ スケジュール

- 8:50 **洞爺湖温泉噴水広場前 道路断層 視察** 説明：岡田 弘 学識顧問(北海道大学名誉教授)
- 9:00 **洞爺湖温泉観光協会・洞爺湖観光情報センター 視察**
説明：藤岡 綾 洞爺湖温泉観光協会
青山里美 洞爺湖町役場観光振興課主任
- 9:25 **事務局によるプレゼンテーション②**
発表：畑 吉晃 事務局員 『洞爺湖有珠火山マイスター制度について』
加賀谷にれ 事務局員 『UGGネットワークへの貢献活動』
- 9:55 **「ジオパークと大地の恵み展」 視察** 案内：武川正人 事務局長
- 10:35 **有珠善光寺自然公園 ～ 有珠善光寺 視察** 説明：福田茂夫 火山マイスター
酒井卓晃 うす観光ボランティアの会会長
- 11:30 **入江・高砂貝塚館 視察** 説明：三谷智広 洞爺湖町教育委員会学芸員
- 12:20 昼食 ナミハイピザ
- 14:00 **カムイチャシ史跡公園 視察** 説明：渡邊つづり 豊浦町教育委員会 学芸員(火山マイスター)
- 14:40 **礼文華海岸 視察** 説明：渡邊つづり 豊浦町教育委員会 学芸員(火山マイスター)
小西重勝 豊浦町郷土研究会会長
- 15:00 **礼文華生活館 カムイノミ・イチャルパ映像** 説明：宇治義之 豊浦アイヌ協会会長
- 16:20 協議会事務ヒアリング① 洞爺湖町役場会議室
- 19:30 終了

■ 25日 写真



洞爺湖温泉観光協会



洞爺湖サミット記念館



ジオパークと大地の恵み展



洞爺湖有珠火山マイスターについて説明



有珠善光寺自然公園



有珠善光寺



有珠善光寺



入江・高砂貝塚館



カムイチャシ史跡公園



礼文華海岸



カムイノミ・イチャルパの解説



礼文華生活館にて



協議会事務ヒアリング

3日目(7/26(水)) テーマ 【 ジオパークの恵みと住民活動 】

■ スケジュール

- 9:00 KH-1 発電施設視察 挨拶：若狭洋市 洞爺湖温泉利用協同組合長
説明：四宮 博 洞爺湖温泉利用協同組合専務理事
- 10:05 サイロ展望台視察 説明：菊地 博 菊地農園代表 / 渡部浩二 サイロ展望台代表
高橋洋一 レイクトーヤランチ代表/高橋敬子 ハーバルランチ代表
- ヘリコプター遊覧
- 10:55 どうや水の駅 視察 説明：堀 由美子 洞爺まちづくり観光協会
- 11:20 洞爺湖芸術館 視察 説明：三島邦代 洞爺湖芸術館館長
- 12:15 昼食 浜田果樹園特設会場(ホテルROYALケータリング)
- 13:15 果樹園案内 説明：浜田英彰 浜田果樹園代表
- 13:45 住民交流会 説明：小西重勝 住民委員会委員長 (豊浦町郷土研究会会長)
三松靖志 NPO法人有珠山周辺地域ジオパーク友の会事務局長
阿部秀彦 洞爺湖有珠火山マイスターネットワーク代表
- 14:00 火山研究資料室 視察 説明：岡田 弘 学識顧問(北海道大学名誉教授)
- 15:00 だて歴史の杜・黎明観 視察 説明：青野友哉 伊達市教育委員会学芸員
川股大介 NPO 法人だて観光協会主任(藍染め・刀鍛冶)
- 16:00 史跡北黄金貝塚公園 視察 説明：小倉定一 オコンシベの会会長
青野友哉 伊達市教育委員会学芸員
- 17:00 協議会事務ヒアリング② 洞爺湖町役場会議室
- 19:30 終了

■ 26日 写真



若狭洞爺湖温泉利用協同組合長挨拶



四宮専務理事 KH-1 発電施設の説明



菊地農園代表より火砕流台地の恵みについて説明



渡辺サイロ展望台代表挨拶



高橋レークツーヤランチ代表挨拶



ヘリ搭乗



とうや水の駅 多品種の野菜販売



浜田果樹園 さくらんぼ食べ比べ



ガイド交流会 小西委員長より豊浦郷土研究会の活動紹介



三松事務局長よりジオパーク友の会活動紹介



阿部代表より火山マイスターの活動紹介



黎明館 藍染の説明



黎明館 刀鍛冶の見学



史跡北黄金貝塚公園の説明



史跡北黄金貝塚公園 体験メニューの説明

4日目(7/27(木)) 現地審査講評

■ スケジュール

8:20 審査員からの現地審査講評 ホテル TOYA 乃の風リゾート 1階会議室

9:10 メディア取材

9:15 ホテル出発 (審査員 新千歳空港へ移動)

<終了>

■ 27日 写真



講評会場



ザン・ジャンピン先生からの講評



カースティン・レモン先生からの講評



佐藤秀敏壮瞥町長より記念品



ユネスコ世界ジオパーク再認定審査 2017

審査員講評（概要）

日時 2017（平成 29）年 7 月 27 日

会場 乃の風リゾート（洞爺湖町洞爺湖温泉）

※この講評は、現地審査員による審査終了時点の感想であり、正式な指摘事項を含む審査可否については 2018 年 1 月頃までに通知される予定です。

■ザン・ジャンピン先生からの講評

3日間の視察でこの地域の美しい景色、素晴らしい地質遺産にも非常に大きな感銘を受けました。また、洞爺湖有珠山ジオパークが地域政府、地方政府、そして地元の人々から大変強い支援をいただいているということを実感しました。

将来のジオパークをよりよいものにしていくために、私の方からいくつかサジェスチョン（助言、提言）を述べます。

1. ジオパーク運営組織

- ジオパークの運営組織に地質の専門スタッフをジオパークで採用する必要がある。
- 英語が話せるスタッフの確保

2. ビジビリティ（可視性）

- ジオパークエリアに入ったことがわかりづらいので、それを示す印（案内標識）が必要。
- 重要なジオサイトは近辺に案内看板を付ける等。

3. 解説看板

- 体系的に設置されていない印象。過去・現在・未来 というストーリーを組み込んだものが必要。

4. ネットワーキング

- 様々な会議やワークショップに参加するだけでは不十分。
- 他の地域との姉妹ジオパーク提携を通じ、世界に発信することを検討して欲しい。

5. 運営パターン、協力方法などについて

- ジオパークが主導して、主体的な役割をもって地域の発展に寄与していくという動きをしなければならない。パートナーシップではなく、ドミナント（主体的に行う、活動を独占する、占める、支配する）という感覚で行うことが必要なのではないか。

6. ミュージアム（博物館、美術館）

- 洞爺湖ビジターセンター・火山科学館については改善が必要。国立公園というのは環境保護、環境保全に重点を置くもので、ジオパークは発展させる、開発する、という側面がある。

7. 境界線

- 特に北側の境界線についてはより詳細な説明、定義が必要。

8. ジオパークの名称について

- 洞爺湖有珠山ジオパークの英語の表記について、少なくとも2種類の表記があり（「Toya-Usu」と「Toya Caldera and Usu Volcano」）、UGG認定の名称に統一が必要。

■カースティン先生からの講評

このジオパークのテーマである『変動する大地との共生』に基づいた、様々なトピックについて視察しました。このエリアでは、活火山との共生に、長い歴史を持っているという点で、非常に素晴らしい取組を成されています。

また、ジオパークと地元との協力関係も大変素晴らしいと感じています。この3日間で多くの火山マイスターに随行していただき、私達は大変ラッキーだったと思っています。彼らの提供してくれるストーリーにも感銘を受けることが多かったです。火山マイスターに関しては、ガイド活動だけではなく、より大きな任務、「減災」に関して大きな役割を持っていることもわかりました。洞爺湖有珠山ジオパークは、特に減災、人材育成の面では本当に素晴らしい実例であると考えています。

また学術的な研究に関して非常に歴史が長く、その結果、博物館の内容も非常に充実していましたし、インフォメーション施設についても内容が充実していたと思います。特に火山の噴火という、起こった事象に対しての記録は非常に克明であったと思います。

それから火山の恵み、これも取り挙げるべき要素だと思います。この視察の間にも多くの美味しい地元の食材を堪能いたしました。シーフード、フルーツ、その他にも大変多くのジオの恵みを堪能しました。

- UGGの審査員としてジャンピン先生と私は3日間、当ジオパークの評価を行った。
- 評価には多くのクライテリア（評価基準）があり、それに従い様々な施設や現地で評価をした。
- 評価基準には例えばビジビリティ（視認性）、運営、情報、教育、研究調査といった要素が含まれる。
- これから、ジャンピン先生と二人でリコメンデーション（改善点）を含む報告書をまとめ、これをUGGの担当部局に送る。9月に「ユネスコ世界ジオパーク評議会会議」が行われ、最終的な決定がまとまる。
（結果発表は10月～11月になる予定とのこと：帰りの車中で確認）
（その後（8/10）、JGNよりGGNに確認した情報が入り、結果発表は2018年1月頃までに、メールで各GPに通知すること。）
- 今後4年間の課題としては、現在成果を上げている個々の取り組みを全て一つに結び付けること。
- このジオパークの任務として、この地域を訪れる誰もがジオパークを知ることができ、ジオパークのテーマを理解でき、ジオパークを活用することができるということが重要。
- 改善点を述べたのは、決して悪い所をあげているのではなく、ジオパークを改善し、より良いジオパークにしていきたいということ。そのために我々も協力するので、世界の他の地域にいる専門家からのアドバイスを受ける、という感覚で捉えて欲しい。今後4年間の皆様の取り組みに期待する。

<以上>